



No.306

2015年1月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町 慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
\*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

出遇いの深さ

中津 功



〈略歴〉
一九三六年、香川県生まれ。大谷大学卒。教学研究所東京分室、高倉会館、宗務所などを経て、現在親鸞仏教センター勤務。

親鸞に遇う

人生は、予測を超えた出遇いの場です。

高校二年生の秋の、ある放課後のこと。『歎異抄』の話があるからと、友に誘われて図書室に行きました。

そのとき、国語の田中先生が、謄写印刷のインクのおいにする『歎異抄』を配られ、はじめの何章かを音読してくださいました。

「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり。」(第二章)
先生の澄んだ声が、ここにひびきました。
その頃の私は、世の中

の不条理や人間の抱えている矛盾が見えはじめ、なぜ、人間に生まれてきたのかと、自分自身を素直に受け入れられない状況でしたので、この人生には、身命を顧みることなく尋ねずにはおれない問いがあり、道がある、と知らされたことは、驚きでした。

因みに、『歎異抄』の話を聞きに行こうと誘ってくれた友は二十代で急逝され、残された私が、生涯の教えとして聞かせていただいていることに、事実のもつ不可思議を感じています。
親鸞の言葉に遇えたことを縁として、人間の思いどおりになることができる目的ではなく、

本願の大地

親鸞の言葉に遇えたことを縁として、人間の思いどおりになることができるのだと教えられます。
この『歎異抄』(後序)

に、聖人のつねのおおせには、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずればひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」と御述懐された言葉が記されています。

もし、親鸞に出遇って聞くことのできた言葉をひとつ言つてくださいます。いわれるなら、私はこの言葉をあげたく思います。

「ひとえに親鸞一人がためなりけり」との言葉から、自ずと、人間の歴史を貫く本願念仏の伝統が、我が身一人のためであったと知らされるからです。
「親鸞一人」という名告りは、「されば、そくばくの業をもちける身にありけるを」と告白されているように、人間であることの、ありとあらゆる業をもっている現実の存在であるということとです。どんな人にも例外はありません。
孤独であれば孤独の身に、驕つて自己を忘れていなるならばその身に、生きる意欲を喪失しているならばその身に、「たすけんとおぼしめしたちける本願」がすでにはたらいっている。それは、依存的な救済で

はなく、人間存在の深奥から喚起してやまない、精神生活の開發です。一人の存在が徹底的に信頼され、尊重されている事実、出遇うのです。
先覚が述懐されたように、「一人になれば淋しい。大勢寄れば喧しい」という人間の生活に、「一人になれば寂かである。大勢寄れば賑やかである」ということのできる、御同朋に恵まれた豊かな生活が開かれるのです。

三島多聞氏が
参務に就任

高山教区選出の宗議會議員 三島多聞氏(真蓮寺住職・鉄砲町)が、一月六日付けで真宗大谷派参務に就任されました。参務とは、国で言えば閣僚(大臣)にあたり、宗門運営を担う役職です。三島氏は、法要儀式や奉仕団、教学、大谷大学などの関係学校に関する部門を担当されます。

新春のご挨拶

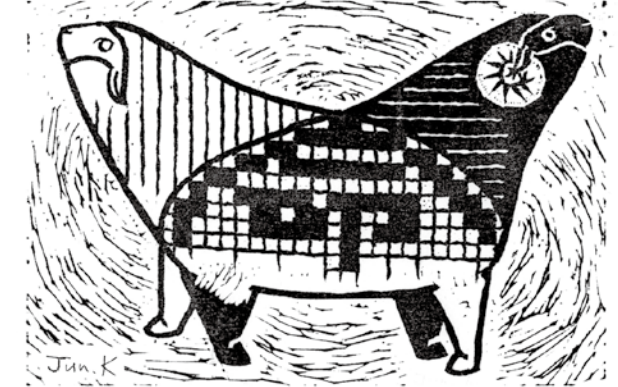
あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

高山教区・高山別院宗親親鸞聖人七百五十回御遠忌法要の歩みが始まりました。御遠忌の記念事業として、別院本堂の屋根の葺き替え及び建物の耐震化を行う方向で、現在、御遠忌委員会で細部を検討しているところです。今後、予算並びに募財の方法を決め、進めさせていただきます。また同時に、法要教化部会においても、どのような法要を厳修するか、検討がなされています。教区別院一体のもとお迎えするこの御遠忌を、更なる教化の機縁とするため、今年はその準備に取り組んでまいります。

さて、昨年、内閣が打ち出した集団的自衛権の解釈で、戦争を肯定するかのような方針がだされました。残念でなりません。宗派もこのことに対して反対の声明を出したことであります。今年には戦後七十年を迎える大切な年です。この間、日本は一度も戦争をしませんでした。その根底には、尊いいのちを奪つたという慙愧と、もう二度とあやまちをくり返さないという誓いがあったのではないのでしょうか。宗祖親鸞聖人のみ教えを聞くものとして、先の戦争

別院真宗公開講座のご案内
講師 佐野 明弘氏 (石川県加賀市光闍坊)
〈2015年1月23日(金)〉
テーマ 「この身を受けとめるといこと(人身受け難し) —あるベトナム帰還兵の生きた道—」
※講話とドキュメンタリー映画上映
〈2015年2月17日(火)〉
テーマ 「この身を受けとめるといこと(人身受け難し) —呼びかけと目覚め—」
会場 高山別院 御坊会館
時間 午後2時から4時 (両日とも)
聴講料 各日600円

年頭版画 未
「人生の命(メエ〜)題」
仏の教えを縁糸に 互いに組んでつむがれた
我が身のありさま縁糸に 命は我を問いたまう
高山教務所長 大町 慶華
高山別院輪番



☎テレホン法話(0577)(34)2313 ☎1月21日〜31日:窪田純氏「圓徳寺」 ☎2月1日〜10日:谷口昭久氏「誓願寺」 ☎2月11日〜20日:石井了泉氏「西教寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

家族で読む

私を照らす

ひかりの言葉 ⑥

酒井 義一

「違い」を生きる

世界の人口はおよそ72億人と言われ... 同じ人はひとりもいません。72億人もいるのだから、ひとりぐらい自分とまったく同じ人がいてもよさそうなのですが、同じ人は誰ひとりとして存在していません。これは大変不思議なことです。私たちは、たくさんの「違い」を抱えながら、今を生きています。

名前や性別、誕生日や国籍が違います。身長や体重、趣味や職業も違います。育ってきた環境や歩んできた人生も違います。このように、たくさんの「違い」を抱えて、私たちは今を生きています。

「同じ」を生きる

しかし、違いだけではなく、意外なことに、「同じ」ことも実はたくさんあるのです。まず、生き物のいのちをただただ生きている、ということが同じです。人間は、他の生き物を食べなければ、生きていけない存在です。一方、他のいのちは、人間のために生まれてきたわけではありません。だから、人間は他のいのちを犠牲にしながら、今を生きているというようになります。

それから、限りのあるいのちを生きている、ということも同じです。

す。永遠に生き続ける人は、ひとりもいません。いつかは終わっていくいのちを、生きていくのです。それは、やがて死にゆくいのちをどう生きていくのかという問いを抱えて生きている、ということでもあります。

それから、様々な問題を抱えながら生きている、ということも同じです。思い通りにならない現実、その中で感じる苦しみや悲しみ、空しさ、孤独、不安、自責の念...。誰もがそのような問題を抱きながら今を生きているのではないのでしょうか。

それから、自分の目で直接自分の姿を見ることができない、ということも同じです。目は外のものを見るためにあるからです。驚くことに、人間は自分自身のすがたさえ、自分の目で直接見ることはできないのです。実は、このように多くの「同じ」を抱えて今を生きているのが、私たちです。

「同じ」に無自覚

しかし、同じものを抱えて生きているながら、そのことに無自覚であるという点も、実は「同じ」です。他のいのちを犠牲にしながら、などとはなかなか思えません。おいしいかまずいのか、高いか安いかなどに気を取られているからです。限りのあるいのち、ということも無自覚です。しばらくは死なないだろうと先送りしたり、死を見ないようにしているからです。

誰もが様々な問題を抱えている、ということも見失いがちです。比較の中を生きているからです。

相手をうらやんだり、さげすんだり...。自分のすがたが見えていないということは、たくさんあるようです。

最大の「同じ」

親鸞聖人は言います。「大悲倦きことなく 常に我を照したまう」 (正信偈)

自分では気づけない闇を抱えて生きている私を、仏さまは、大いなる悲しみをもって、いつでも、どこでも、どんな時でも、照らし続けているというのです。私たちの最大の「同じ」は、ここにあります。そうです、誰もがみな自分では気づくことのできない闇を抱えているがゆえに、誰もがみな教えのひかりに照らされるべき存在なのです。それが最大の「同じ」です。

相手の中に、人類に共通する課題を見だし、共にひかりに照らされる世界に帰っていく。そんなていねいな歩みをしていきたいのです。



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ⑥」です。

飛驒の真宗

伝承散歩⑩ 金森長近と高山(上)

金森長近は一五二四(大永四)年、土岐一門の田畑定近の子として多治見に生まれたといわれています。のちに近江野洲金ヶ森(滋賀県守山市)へと移りました。金ヶ森は浄土真宗の善立寺を中心にして寺内町が形成されており、京都から近いこともあり商業地としても栄え、力強い地域でした。それにあやかり、姓を「金森」に改めました。その後、織田信長に仕え、長篠の戦いや越前一向一揆(真宗教団を中心とした一揆)の討伐などで戦績を重ね、一五七五(天正三)年、越前国大野郡(福井県)に所領を与えられました。その後は信長配下の柴田勝家の軍に所属しました。その間、信長は本願寺と敵対、比叡山

を焼き討ちにします。その両方に近い金ヶ森も攻撃の対象となりました。一五八二(天正十)年、本能寺の変で信長が死ぬと、柴田勝家と羽柴(豊臣)秀吉が対立するようになります。翌年、勝家が秀吉に敗れると、長近は秀吉の家臣となりました。その頃、飛驒は三木自綱が治めていました。越中(富山)の佐々成政と結んで、秀吉と敵対していました。一五八五(天正十三)年、秀吉は長近に飛驒の地の平定を命じました。長近は白川郷の内ヶ島氏も配下に入れ、短期間で三木氏を討伐。飛驒を平定しました。秀吉は飛驒の地を長近に与え、長近は領主となったのです。

聖教学習会

日時 2月12日(木) 19日(木)

午後1時30分

午後4時30分

講師 藁輪 秀邦氏 (福井教区)

「親鸞聖人と現代における聖徳太子の意義」

会場 高山別院

聴講自由・無料

二階研修室

教化研究所 課題別講義

日時 2月9日(月) 午後1時30分

午後4時30分

講師 ケネス・タナカ氏 (武蔵野大学教授・国際真宗学会会長)

「現代アメリカの宗教の現状」

「閉塞する日本仏教への示唆」

会場 高山別院

二階研修室

聴講自由・無料

二階研修室

ご坊 子ども会

日時 2月22日(日) 午前9時

11時頃

会場 高山別院

対象 小学生

参加自由・無料

真宗本廟(東本願寺)収骨団体参拝 参加者募集

真宗本廟収骨とは、京都東本願寺の親鸞聖人の御真影が安置されている御影堂の御もとにご遺骨をお収めすることです。収骨を行うには、相続講金を納めることにより発行される「収骨證」が必要です。ご希望の方は、お手次のお寺までお申し込みください。

期間 3月14日(土)~15日(日)【1泊2日】
日程 お齋(昼食)、真宗本廟法話、収骨、帰敬式、大谷祖廟参拝、比叡山参拝など
泊定 観光旅館 近江屋
参加費 20名 ※定員になり次第締め切り ※参加人数が10名未満の場合は、中止とさせていただきます。
参加費 一人 33,000円
締切 2月10日(火)

※詳細については教務所(☎0577-32-0776)へお問い合わせください。